

宇都宮共和大学の理念・目的・将来像

1 大学の理念・目的

学校法人須賀学園は、栃木県宇都宮市に1900年に須賀栄子により創立され、宇都宮共和大学、宇都宮短期大学、同附属高等学校・中学校を持つ総合学園である。建学の精神は、全人教育（人間形成の教育）にある。学園全体の教育理念は、次の3項目であり、大学の理念でもある。

- ①人間尊重の精神と豊かな人間性とを啓培し、民主社会における真に望ましい人間を育成する。
- ②円満な教養と高い徳性とを培い、個々の特性の伸長につとめ、心身ともに健康な人物を育成する。
- ③自主自立の気風を高め、忍耐力と実践究明の態度を涵養し、勤労と責任を尊ぶ人材を育成する。

宇都宮共和大学は、栃木県黒磯市（現那須塩原市）の大学誘致の要請により、1999年に設立された那須大学都市経済学部を基盤として、2006年に宇都宮中心市街地（宇都宮シティキャンパス）にキャンパスを移転し、宇都宮共和大学シティライフ学部へ改称した。2011年には、宇都宮短期大学（市内長坂キャンパス）の人間福祉学科幼児教育専攻を発展させ、子ども生活学部を新設し、現在2つの学部を有する大学となっている。

宇都宮共和大学は、須賀学園の教育理念を踏まえ、大学の目的として、「時代の潮流と社会の要請を見極め、常に知識と能力を向上させるとともに大学を地域社会における知的交流の場とし、さらに経済、教育、文化の振興と社会の向上に貢献できる人材を育成することを目的とする」（学則第1条）と定めている。

宇都宮共和大学は、宇都宮市内を中心に栃木県内に那須キャンパスを含めて3つのキャンパスと活動拠点を持っており、学園の100年を超える伝統を生かしながら、絶えず「まち」、「ひと」に視点を当て栃木県央を中心とする北関東圏の「地域社会」の経済、教育、文化の向上と発展のために貢献することを目的とする大学である。

2. 各学部の教育目的（ディプロマポリシー）

2つの学部の教育目的は、それぞれ次のように規定されており、これは4年間の大学教育を通じて学生たちを下記の目的に沿った人材を養成し地域社会に送り出すという意味で、各学部のディプロマポリシーとなっている。（学則第1条 内規）

(1) シティライフ学部

シティライフ学部では、次の4つの能力を身に付けることにより、都市生活を支えている様々な組織で貴重な戦力になることが期待される人材養成を目指している。

- ①社会に対する幅広い関心と知識を有し、多様な人々とコミュニケーションをとれる能力を修得している。
- ②基本的・普遍的な知識を習得するとともに、様々な情報を収集・整理・創造できる資質を身に付けている。
- ③社会生活の場である都市に生起する諸課題を比較検討、分析するとともに、具体的な課題に対する解決策を考える力を修得している。
- ④社会的な存在である大学の役割を踏まえて、市民、自治体、企業との多面的な社会ネットワークづくりに貢献できる力を身に付けている。

(2) 子ども生活学部

子ども生活学部では、次の5つの能力を身に付けることにより、子どもの健康で豊かな発達を支えることのできる人材養成を目指している。

- ①子どもと共に生活を創る人として、子どもの生活の安全に配慮し豊かな生活・保育環境をつくることのできる能力を修得している。
- ②子どもや保育者、同僚とのコミュニケーション力、積極的に他者とのかかわる意欲と資質を身に付けている。
- ③子どもの成長・発達にかかわる専門職としての知識・技能を磨き、子どもが主体となる生活や社会を創り出す力を修得している。
- ④子どもに関連する得意な分野の専門性を深め、様々な場で、子どもを豊かに育てる力を身に付けている。
- ⑤理論を応用する実践力や、実践を振り返り洞察する力を修得している。

3. 大学の将来像（長期目標）

本学は、地域社会と連携し、地域で活躍できる人材（専門家）を養成し、「地域社会の発展に貢献し、地域社会に信頼される知的交流の拠点となる」ことを目指している。

建学の精神として掲げている全人教育（人間形成の教育）は、学園全体の共通の理念となっている。

本学シティライフ学部では、豊かな都市生活の実現に貢献する専門家を、子ども生活学部では子どもの生活と保育・教育の専門家を養成している。本学園の宇都宮短期大学においては、音楽と福祉分野の専門家を、更に、宇都宮短期大学附属高等学校では、大学進学を目標とした普通科に加えて、生活教養科、情報商業科、調理科、音楽科などの特色ある専門学科を設けている。

学園全体として、幼児、子ども、子育て世帯から、都市生活者、高齢者などあらゆる

る年齢層を対象に教育・研究を行っており、更に文化活動等まで含めて人生の多様なフェーズを対象とした専門家を養成している。また、単に専門的知識・技能を有しているだけでなく、建学の精神に基づき豊かな人間力を身に付けることに重点を置いている。こうした学園の精神を受け継ぎ、これからも有為な人材を数多く地域社会に送り出していくことに、本学園の存立基盤がある。

栃木県は、現在、約 200 万人の人口を有しているが、2040 年には 160 万人台に減少するとともに、超高齢社会を迎えることが予想されている。こうした中で、地域の活力を維持するためには、地域で活躍する意欲と能力を有する人材を着実に養成し、地域社会に送り出していくことが必要である。さらに、地域で生ずる様々な課題を究明し、対応策を検討していくことも求められる。

本学は、栃木県内に基盤を置いた大学である。大学の使命は地域社会の中にあって、地域社会の発展に寄与することにある。直面している少子・超高齢社会の中にあっても、持続可能な地域社会を実現し、豊かな社会生活を送れるようにする地域づくりに貢献する必要がある。

豊かな人間力を有する人材を養成するとともに、地域社会の発展に寄与するため、地域社会に開かれた大学として、以下の 3 項目に注力する。

- ① 地域社会と連携する。
- ② 地域で活躍できる人材（専門家）を養成する。
- ③ 地域の課題に応える教育研究に取り組む。

本学教育の目的は、社会に出て活躍し、より良い社会の実現に貢献できる有為な人材を養成し、地域社会に送り出すことにある。そのため、専門的な知識を修得させるとともに、常に課題を発見し解決策に目を向けられる実践的な知識を修得させる必要がある。

また、社会で生起する課題を明らかにし、その解決策を提示できる実践的な学問成果を上げることが求められる。そのため、基礎的・基本的な学術研究を行うとともに、社会の具体的な課題に対し解決策を提示できる実践的な学術研究を充実させる。

大学は地域社会の中に存在しており、地域に開かれた大学として主体的に活動していかなければならない。地域で活躍できる人材を養成する上でも、地域に貢献する研究をする上でも、市民・企業・行政・地域の団体等地域社会に関係する様々な主体と連携協働することが不可欠である。これまで積み重ねてきた地域社会とのつながりの蓄積を踏まえて、より連携を強化し、地域社会の発展に寄与しなければならない。

本学は、地域に開かれた大学として、「地域社会の発展に貢献し、地域社会に開かれた知的交流の拠点となる」ため、常に努力し向上する大学であることを目指している。